

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム野楽里(西の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	令和3年 10月 29日	評価結果市町村受理日	令和4年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detai_2021_022_kani=true&igvosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年 11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな地域で静かである。直ぐ傍に池があり夏は亀、冬は渡り鳥を見ながら散歩できるコースがあり活用できる。散歩や軽体操で筋力低下予防を図っている。また、「雨にも負けず」などを音読したりパズルを行って脳トレに取り組んでいる。毎日のレクリエーションに加え、毎月ユニット間の交流になるような活動にも取り組んでいる。入居者様とご家族・入居者同士・入居者と職員等の関わりを大切に、安心して、笑いある生活になるよう奮闘している。日常生活をリハビリとし洗濯を干したり畳んだり、食事作りに参加したり、一人一人の力を活かし、生活に張りをもって過ごし、自分のスタイルでの生活を見守っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出や地域交流もできない中、懸念される筋力低下を予防するために時間を決めて体操や散歩に取り組み、メリハリある活動も工夫しています。納涼祭、敬老会、ドライブ等、月に一度はユニット合同レクリエーションを企画し、なかでも地域交流ホールを活用した「おやつバイキング」は好評で、地元の銘菓や馴染みあるお菓子が並ぶ光景は甘いもの好きの視線を釘付けにしました。ユニット会議や個人面談も定着してチームワークが醸成され、センター方式「暮らしの情報シート」を再度ひもとして、利用者の持てる能力を最大限発揮できるよう手作りメニューの日に活かし、根拠あるケアが展開されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をロッカーに貼り出している。年度末の職員会議で配布もされ再確認をしている。フロア会議で確認したが、言葉としてはうろ覚えだが意味としては理解している職員が多かった。	法人理念「一人一人がその人らしく自立した生活を営むことができるよう～」を掲げ、常に目にする場所に掲示して意識づけています。センター方式「暮らしの情報」シートをもとに「今できること(役割)」を的確に捉え、生き生きとした毎日が送れる支援が為されています。	理念が示す方向性と個人目標の整合性を図り、実践できているか振り返りの機会を持つことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス感染症対策として、外部との接触はない。	書面開催とした運営推進会議の報告書を地域代表に郵送して意見(要望)・質問を募り、回答を返送するやり取りが続けられています。コロナ禍でも工夫した行事が行われている安心感や事故報告への質問等、多様な意見が寄せられ、関心の高さが目を引きまます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として福祉に関する相談窓口を開設しているが、相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染症警戒レベルが高かった為、書面での開催とした。	隔月ごとの書面開催としていましたが、感染者数の減少が続いた11月には通常通り開催し、市長寿推進課、地域包括、地区福祉委員、民生委員、家族代表2名の出席が叶っています。紙面を通じて行ってきた情報共有で、会議の進行もスムーズです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染症関連の対策やワクチン接種に関する情報を市とメールでやり取りした。	事故報告書はメールで滞りなく報告し、昨年度の実地指導で指摘があった書面の不備は速やかに改善しています。運営推進会議書面開催期間中においても利用状況やヒヤリハット報告、苦情受付状況を申し、事業所の運営の透明性に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	野楽里全職員を委員とし、3か月に1回開催している。外部研修参加職員による伝達を行った。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎開催し、指針に定めた内容に沿ってマニュアルや日常的ケアの見直しを行っています。不穏になった利用者には声をかけ、様子によって静かに見守る、気分転換できることを提供してみるなど対応方法を考え、統一したケアを進めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアではないかと疑問に思う職員から報告もあり、聞き取りをし改善するよう指導することもあった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している入居者はいない。「成年後見人制度」の研修を行った(DVDを活用)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元引受人に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として1年に1回、満足度調査をしている。また、ホームページにご意見を掲載している。	事業所での活動を写真で紹介する「野楽里通信」を毎月発行し、四半期ごとのお便りで近況を知らせています。満足度調査では7割以上から満足という結果が得られていますが、コロナ禍で面会制限があるため普段の様子を知りたいという要望も多く聞かれています。	今後も面会制限が続くことが想定されるため、お便りの充実(発行頻度を上げる、内容の充実を図る等)を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度、毎月面談できるよう試みた。できない月もあった。主任が実施し管理者に報告している。	不定期だったユニット会議は今年度から月ごとに開催し、業務やケアの見直しと共有ができています。個人面談を毎月実施し、園芸、レク、行事、食事(発注、メニューの決定)担当など、輪番で係を担うことで相互に思いやる気持ちも生まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・厚生休暇で連続した休暇 ・誕生日休暇 ・就業時間の定時終了促進		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Zoomでの外部研修に今年3人が参加できた。必要に応じ、皆に伝達し質の向上を図った。感染症内部研修はガウンテクニック・ゾーニングについて行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	掛川市事業所連絡会に1回参加。コロナウイルス感染症対策で部会がなかったため、グループホーム間での意見交換がない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の聞き取りで情報収集に努めている。不安な事だけでなく、趣味や日常行っている事等を聞き取り、関係作りに活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護者の気持ちに寄り添い、労いの言葉をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を聞き取り状況に応じ、他のサービス(例えば、併設の小多機)の利用を勧める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で「お願いする」「一緒に行く」「教えて頂く」等の姿勢を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は基本家族。コロナウィルス感染症対策で、受薬のみとなる事があったり、面会制限があり対面で会える機会が少なかった。毎月「野楽里通信」を発行し送付。3か月に1回担当者からのお手紙も出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染症対策の為、窓越しの面会が多く、それにより面会も減り外出もできなかった。	窓越し面会や電話で互いに安心し、馴染みの医師による体調管理が明日への活力となっている人もいます。関心がなくなった趣味でも道具を揃えて準備してみたり、新聞を読むのが日課で、運動を兼ねて玄関口まで取りに行く人など、自身のこだわりを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉を発しない入居者に対して、自然に声をかける入居者がいる。そのような場面を大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりは持っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、本人の意見を尊重した生活の場を提供している。一人で居る時間を大切にしながらも居室にこもりつきりにならないよう配慮している。	入居前の情報はセンター方式「暮らしの情報」シートへ、家族に書き込んでもらって生活習慣や好みを把握しています。日常生活からは、一対一の関わりとなる入浴介助の際につぶやきを拾い、大勢の前では表現できない思いを汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の「暮らしぶりシート」を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し情報共有している、必要に応じケース検討会を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回モニタリングを実施。更新時期や状態変化ある時、担当者会議を行っている。コロナウイルス感染症対策で制限がある時は、電話での担当者会議とした。担当者会議の内容は職員に回覧し確認してもらい共有している。	本年10月より併設する小規模多機能事業所の介護支援専門員が統括し、両ユニットを担当する計画作成が介護計画を作成しています。サービス内容は第三者が見てもケア方法がわかる具体的表現で記載され、現状把握が正確な居室担当がモニタリングしています。	サービス内容と介護記録の一貫性を持たせ、ケアの目的と根拠が明確になる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有できている。新規入居者、体調不良者は特に詳しく記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の想いと家族の想いを踏まえながら、必要に応じ検討している。(東の里フロアでは、往診を活用している入居者もいる)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策として、外出・外部との接触を避けた。「中新井池」の散歩やドライブ(車外に出ない)に出かけ、気分転換を図った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医を継続し、家族に受診をお願いしている。体調変化がある時は同行したり、文書にて報告し連携をとっている。	全員がかかりつけ医を継続し家族が受診支援をしています。正確な診断を期すために、必要に応じて電話やファクスで状態を伝えています。重度化により往診をお願いすることもあり、受診が難しくなれば訪問診療が可能な医療機関への切り替えも視野に入れていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師に状態変化ある時は伝えて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有やサマリーを活用し共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設5年目となり、心身の低下している入居者が増えている。本人を中心に家族・職員・医師と情報共有し、今必要なケアに取り組んでいる。統一したケアをする為に、職員間の情報共有をしっかりとやっていきたい。	開設以来一名を見送ったのみで、現在看取りの対象となる人はいません。重度化した際には法人内の特別養護老人ホームへの転居や病院を選択する家族もありますが、「最期まで事業所で…」と希望する思いに出来るだけ添えるよう、研修を企画しています。	入院や特養への転居等、選択肢がある中で、事業所を終の棲家と決めた本人や家族の思いを職員間で共有し、看取りに活かせることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、勉強会として皆で訓練はしていない。コロナウイルス発生した時の初期の対応は内部研修実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害マニュアルがある。日中想定防災訓練・放水訓練・通報訓練実施した。夜間想定訓練予定している。	法定訓練の他にも訓練日を設け、年4回実施しています。法人内の異動で訓練の体験に偏りがないよう併設事業所と合同で計画を練っています。周辺地域住民の参加を得た夜間想定訓練ではテラスからの避難が課題となり、段差にスロープを設置する予定です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の現在の特性を捉え、声掛けに工夫している。不穏になると関わりが難しい入居者に対しては距離感も考えながら対応している。	身体拘束廃止委員会において日常ケアの見直しも行っていて「大きな声は威圧感を生む、難聴の方には耳元で低い声で」「トイレはノックし、ドアを少し開けて確認する」など、尊厳やプライバシーに着目しています。	研修で行った「自己点検シート」のできていない点が改善されているか再点検し、他職員のケアに疑問を感じた時、相互に注意し合える職場環境となることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2者選択の声掛けや傾聴・共感・受容し、想いを表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた人数で出来る事の限界もあるが、希望に添えるように一人一人が意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全職員意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度の取組として、手作りする機会を増やし毎月1回はできるようにしている。個々の状況に合わせ役割分担をした。手作りおやつも、時々一緒に行っている。(ホットケーキ・誕生日ケーキ・プリン等)	業者から届いたものを湯煎で温めて提供していますが、月に一度の手作り企画では材料を切る、ご飯を盛り付ける、食器を洗うといった個々の出来ることを探り、達成感が得られています。主食のご飯は、食塊形成しやすいよう水加減にも配慮して炊飯しています。	グループホームならではの手作り企画やおやつ作りが今後も維持されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残している。食事が少ない状態が続く時は、補助食品の提供もした。体重管理をしながら食事提供量を調整した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし実施している。食前の口腔ケア体操を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのパターンを把握し支援している。適したパットはどれか職員間で意見交換している。	排泄用品は日中用、夜間用とコスト面から家族負担を考慮して適したものを使用し、職員2名でトイレ介助を要する人もいます。一人ひとりの排泄リズムに合わせ汚染がないよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳や白湯の提供、運動の声掛けをしている。オリゴ糖使用を続けてみたが、効果は得られず。自然排便になるように工夫していきたい。(東の里は、毎朝麦ごはんでお試し中である)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入れるよう、無理強いのないよう声掛けしている。	「毎日入りたい」まで対応できていませんが、準備から一緒に職員が付き添い、ゆっくりのんびり入れる時間を確保して満足感を重視しています。長湯になっておしゃべりが止まらない人もあり、菖蒲湯、柚子湯といった季節の変わり湯もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して就寝できるようタイミングをつかみ誘導している。眠剤が必要かどうかを検討した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で確認している。薬変更時の申し送り、記録記載を怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の口癖やルーティンで行っている事を把握し対応している。月1回合同レク活動を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染症対策により、家族や知人等の協力での外出支援は禁止とした。	渡り鳥が舞い降り、御衣黄や紫陽花など四季折々の花々が咲く中荒井池が一望でき、「外を歩くのは気持ちいい」と言う声に応え、天気の良い日には積極的に散歩に出かけています。毎月の合同レクリエーションで降りないドライブも取入れ、気分転換を図っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症対策として、買い物に出かける事は禁止とし職員もしくは家族だけで購入するようにした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「野楽里通信」送付、3か月に1回、担当からお手紙を送付している。友人やご家族からの電話の仲介をした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時、摘んできた花を飾る。季節に合った装飾に取り組む。テラスにプランター栽培を置く。夕焼けが見えるようにする等、五感に届くような空間作りを心掛けている。	ユニット職員が自主的に利用者と共同で製作して壁面を彩り、夏みかんやぶどう、柿など時節を知らせる果物もまずは目で見て楽しんでいます。園芸係がプランターで華を添え、池に架かる虹やユニットから見える夕焼けに浸るなど、自然の豊かさが満喫できる共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に合わせて席の配置を変更し、くつろげる場所を提供している。廊下に長椅子を置き、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて配置の仕方を変更し、転倒リスクの軽減に努めている。TV・チェストを持ち込む人・家族の写真がある人もあり、一人一人の住まいを大事に考えている。	テレビや椅子、テーブルなどの持込みがありますが、フロアで過ごすことが増えて自宅に持ち帰ってもらった例もあります。朝起きられない人には、カーテンから射し込む太陽の光を感じやすい角度や、トイレから遠い居室は入り口側に、とベッドの配置を考えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー。歩行経路には物を置かないようにしている。新聞受けを廊下に置き、取りに行く日課になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム野楽里(東の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	令和3年 10月 29日	評価結果市町村受理日	令和4年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detai_2021_022_kani=true&igvosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年 11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな地域で静かである。直ぐ傍に池があり夏は亀、冬は渡り鳥を見ながら散歩できるコースがあり活用できる。散歩や軽体操で筋力低下予防を図っている。また、「雨にも負けず」などを音読したりパズルを行って脳トレに取り組んでいる。毎日のレクリエーションに加え、毎月ユニット間の交流になるような活動にも取り組んでいる。入居者様とご家族・入居者同士・入居者と職員等の関わりを大切に、安心で、笑いある生活になるよう奮闘している。日常生活をリハビリとし洗濯を干したり畳んだり、食事作りに参加したり、一人一人の力を活かし、生活に張りをもって過ごし、自分のスタイルでの生活を見守っている。

コロナ禍で外出や地域交流もできない中、懸念される筋力低下を予防するために時間を決めて体操や散歩に取り組み、メリハリある活動も工夫しています。納涼祭、敬老会、ドライブ等、月に一度はユニット合同レクリエーションを企画し、なかでも地域交流ホールを活用した「おやつバイキング」は好評で、地元の銘菓や馴染みあるお菓子が並ぶ光景は甘いもの好きの視線を釘付けにしました。ユニット会議や個人面談も定着してチームワークが醸成され、センター方式「暮らしの情報シート」を再度ひもとして、利用者の持てる能力を最大限発揮できるよう手作りメニューの日に活かし、根拠あるケアが展開されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をロッカーに貼り出してある。年度末の職員会議で配布もされ再確認をしている。フロア会議で確認したが、言葉としてはうろ覚えだが意味としては理解している職員が多かった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウィルス感染症対策として、外部との接触はない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として福祉に関する相談窓口を開設しているが、相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウィルス感染症警戒レベルが高かった為、書面での開催とした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウィルス感染症関連の対策やワクチン接種に関する情報を市とメールでやり取りした。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	野楽里全職員を委員とし、3か月に1回開催している。外部研修参加職員による伝達を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアではないかと疑問に思う職員から報告もあり、聞き取りをし改善するよう指導することもあった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している入居者はいない。「成年後見人制度」の研修を行った(DVDを活用)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元引受人に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として1年に1回、満足度調査をしている。また、ホームページにご意見を掲載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度、毎月面談できるよう試みた。できない月もあった。主任が実施し管理者に報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・厚生休暇で連続した休暇 ・誕生日休暇 ・就業時間の定時終了促進		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Zoomでの外部研修に今年3人が参加できた。必要に応じ、皆に伝達し質の向上を図った。感染症内部研修はガウンテクニック・ゾーニングについて行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	掛川市事業所連絡会に1回参加。コロナウィルス感染症対策で部会がなかったため、グループホーム間での意見交換がない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の聞き取りで情報収集に努めている。不安な事だけでなく、趣味や日常行っている事等を聞き取り、関係作りに活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護者の気持ちに寄り添い、労いの言葉をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を聞き取り状況に応じ、他のサービス(例えば、併設の小多機)の利用を勧める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で「お願いする」「一緒に行う」「教えて頂く」等の姿勢を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は基本家族。コロナウィルス感染症対策で、受薬のみとなる事があったり、面会制限があり対面で会える機会が少なかった。毎月「野楽里通信」を発行し送付。3か月に1回担当者からのお手紙も出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染症対策の為、窓越しの面会が多く、それにより面会も減り外出もできなかった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉を発しない入居者に対して、自然に声をかける入居者がいる。そのような場面を大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりは持っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、本人の意見を尊重した生活の場を提供している。一人で居る時間を大切にしながらも居室にこもりつきりにならないよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の「暮らしぶりシート」を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し情報共有している、必要に応じケース検討会を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回モニタリングを実施。更新時期や状態変化ある時、担当者会議を行っている。コロナウイルス感染症対策で制限がある時は、電話での担当者会議とした。担当者会議の内容は職員に回覧し確認してもらい共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有できている。新規入居者、体調不良者は特に詳しく記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の想いと家族の想いを踏まえながら、必要に応じ検討している。(東の里フロアでは、往診を活用している入居者もいる)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策として、外出・外部との接触を避けた。「中新井池」の散歩やドライブ(車外に出ない)に出かけ、気分転換を図った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医を継続し、家族に受診をお願いしている。体調変化がある時は同行したり、文書にて報告し連携をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師に状態変化ある時は伝えて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有やサマリーを活用し共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設5年目となり、心身の低下している入居者が増えている。本人を中心に家族・職員・医師と情報共有し、今必要なケアに取り組んでいる。統一したケアをする為に、職員間の情報共有をしっかりとやっていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、勉強会として皆で訓練はしていない。コロナウイルス発生した時の初期の対応は内部研修実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害マニュアルがある。日中想定防災訓練・放水訓練・通報訓練実施した。夜間想定訓練予定している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の現在の特性を捉え、声掛けに工夫している。不穏になると関わりが難しい入居者に対しては距離感も考えながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2者選択の声掛けや傾聴・共感・受容し、想いを表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた人数で出来る事の限界もあるが、希望に添えるように一人一人が意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全職員意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度の取組として、手作りする機会を増やし毎月1回はできるようにしている。個々の状況に合わせ役割分担をした。手作りおやつも、時々遺書hに行っている。(ホットケーキ・誕生日ケーキ・プリン等)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残している。食事が少ない状態が続く時は、補助食品の提供もした。体重管理をしながら食事提供量を調整した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし実施している。食前の口腔ケア体操を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのパターンを把握し支援している。適したパットはどれか職員間で意見交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳や白湯の提供、運動の声掛けをしている。オリゴ糖使用を続けてみたが、効果は得られず。自然排便になるように工夫していきたい。(東の里は、毎朝麦ごはんでお試し中である)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入れるよう、無理強いのないよう声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して就寝できるようタイミングをつかみ誘導している。眠剤が必要かどうかを検討した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で確認している。薬変更時の申し送り、記録記載を怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の口癖やルーティンで行っている事を把握し対応している。月1回合同レク活動を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症対策により、家族や知人等の協力での外出支援は禁止とした。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症対策として、買い物に出かける事は禁止とし職員もしくは家族だけで購入するようにした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「野楽里通信」送付、3か月に1回、担当からお手紙を送付している。友人やご家族からの電話の仲介をした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時、摘んできた花を飾る。季節に合った装飾に取り組む。テラスにプランター栽培を置く。夕焼けが見えるようにする等、五感に届くような空間作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に合わせて席の配置を変更し、くつろげる場所を提供している。廊下に長椅子を置き、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて配置の仕方を変更し、転倒リスクの軽減に努めている。TV・チェストを持ち込む人・家族の写真がある人もあり、一人一人の住まいを大事に考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー。歩行経路には物を置かないようにしている。新聞受けを廊下に置き、鳥に行く日課になっている。		